



『英語対訳 源氏物語(桐壺)～E・G・サイデンステッカー訳と読む～』

千古の昔から変わらない男と女の心の百様を描いた「源氏物語」古色蒼然とした千年前の古文と、名訳の誉れ高いE.G.サイデンステッカーの英語訳を見比べ、「源氏」の面白さが二倍にも、三倍にも！



2012/1/25全国書店・ネット書店で発売！

ジャンル:文学・語学
読者層:古文に興味ある方、古文で語学を学びたい方
定価:1,300円+税(1,365円)
著者:コトノ・キリエ
出版社:バベルプレス
判型:B5/ソフトカバー
頁:102ページ
ISBN:978-4-89449-124-3

本書は、「源氏物語」の「桐壺」の巻を、本文である古文とその英訳であるサイデンステッカーの英文を比較・対照しながら読むことで、二つのコトバによる「源氏」世界を味読できるようにしたものである。サイデンステッカーの英訳には、便宜を図って邦訳をつけた。

古典作品でもっとも人気がある「源氏」だが、この本文を昔の古文のままて読むのはなかなか大変。そこで、口語訳、ダイジェスト版、マンガなどで読んでみる。読んでみると、初めから終いまで、男と女がうっとりしいほどの色恋にうつつを抜かしているだけのように思われる。

ちなみに、英文法の知識は中学・高校時代に習った知識でほぼ十分。その昔、習った古文の復習とともに、英語のおさらいを「源氏物語」ですするというのは、昔になかったオツな楽しみ方でしょう。

<エドワード・G・サイデンステッカーについて>
-1921 - 2007 アメリカの日本文学研究者-

1921年2月11日生まれ。昭和22年アメリカ国務省職員として来日。帰米後、コロムビア大学で公法及び行政学の修士号を取得。1947年に国務省外交局へ入り、イェール大学とハーヴァード大学に出向して日本語の訓練を重ねる。当時まだ日本にアメリカ大使館が存在しなかったため、連合軍最高司令長官付外交部局の一員として滞日。その傍ら、東京大学に籍を置いて吉田精一のもとで日本文学を勉強した。その時の友人が直木賞作家の高橋治。

日本語に熟達して評論活動を行ったが、1962年からスタンフォード大学に奉職、のちコロムビア大学教授として日本文学を講じ、アンソニー・チェンバースのような後進を育てた。谷崎潤一郎、川端康成らの作品や「源氏物語」などを翻訳して海外で紹介している。

平成19年8月26日東京都内で死去。86歳。コロラド州出身。コロラド大卒。訳書に「かげろふ日記」「細雪」等。著作に「現代日本作家論」等がある。

- ・ はじめに
- ・ 桐壺更衣、帝の寵愛を受け、朋輩の嫉妬を招く
- ・ 更衣の家柄
- ・ 光源氏の誕生
- ・ 宮中での更衣の立場
- ・ 源氏三歳、袴着のこと
- ・ 更衣の病重くなり里邸へ退出
- ・ 更衣の死また
- ・ 更衣の葬儀
- ・ 亡き更衣への追贈
- ・ 法要のことなど
- ・ 帝、若宮を慕う
- ・ 鞍負の命婦の弔問
- ・ 帝の記憶
- ・ 更衣の里の様子
- ・ 命婦、帝のお言葉を伝える
- ・ 帝の文
- ・ 更衣母の応答
- ・ 更衣母、娘にかけた期待を語る
- ・ 命婦、帝の自省の言葉を語る
- ・ 若宮の参内を促す
- ・ 命婦、帝に里の様子を語る
- ・ 帝、更衣楊貴妃になぞらえる
- ・ 弘徽殿の態度
- ・ 帝、孤独に沈む
- ・ 近臣たちの嘆き
- ・ 若宮の参内
- ・ 更衣母の死
- ・ 若宮の読書始め
- ・ 若宮の評判
- ・ 高麗人の予言
- ・ 若宮を源氏に降下
- ・ 四の宮（藤壺）への思慕
- ・ 源氏の元服
- ・ 源氏と左大臣の姫君との結婚
- ・ 左大臣家と右大臣家の勢力関係
- ・ 源氏、藤壺を慕う
- ・ 源氏の住まい所
- ・ あとがき

以上、ご高評価くださいますよう、お願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせはこちら】

TEL:03-5211-3727 email:press@babel.co.jp

(担当:藪下)バベルプレス(株式会社バベル)HP:http://www.egaiasyoten.com/



本書の構成 -sample-

【桐壺 The Paulownia Court】

——桐壺更衣、帝の寵愛を受け、朋輩の嫉妬を招く——

原文

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける(さぶらひたまふ)なかに、いとやむごとなき際にはあらぬが(分ではなぬが)、すぐれて時めきたまふありけり(帝の寵愛を受けておられる[更衣が]あった)。

はじめより我はと(内内侍初から身受らむ)思ひ上がりたまへる御かたがた、[むか]めざましきものに(けしきさか)おとしめ嫉みたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たち(はそれより身分の低い更衣たち)は、ましてやすからず。

女御：天皇の寝所に侍した高位の女官。中宮の下、更衣の上／更衣：もとは天皇の衣替えの女官／時めき：ここでは帝の寵愛を受けること／下臈：身分の低い者

サイデンステッカー訳

In a certain reign there was a lady not of the first rank whom the emperor loved more than any of the others. The grand ladies with high ambitions thought her a **presumptuous upstart**, and lesser ladies were still more resentful.

a presumptuous upstart：生意気な成り上がり者。(めざましきもの)の訳。

(“THE TALE OF GENJI” Translated by Edward G. Seidensticker PENGIN BOOKS 1976 P.3)

ここに注意！

「更衣」は女官名ではなく、固有名詞として処理。「女御・更衣あまた…」をthe othersと処理、「同じほど」は訳さず、簡潔な書き出し。

現代語訳

ある御世に、最上の位ではないのに、他のどの方々よりも帝の寵愛を受けた女性があった。自分こそはと高い望みをかけていた高位の方々からは、身の程を知らぬ成り上がり者と思われ、下位の女性たちからは、なおさら怒りを買っていた。

桐壺帝



(あまたの)女御・更衣

桐壺更衣(いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふ)